

いつまで我慢すればいいのか！



貨物超低額回答 経営責任を果たせ



No. 2616
2011年12月10日
発行責任者 大沼 元
編集責任者 武田 昌仙

11月17日、JR貨物会社は、11年度年末手当の支払いで、基準内賃金の1・57ヶ月分という、超低額回答を示したが、「生活改善は期末手当で」という、社員家族の切実な声、願いに背を向け踏みこむ回答に対し、組合は席上強く抗議するとともに、各級機関に対し抗議行動を指示。地本内においても11月21日、宮城貨物総鉄門前において「再検討・再回答を求める抗議集会」を開催するなど各地で抗議行動を展開した。

責任転嫁は許さない

宮城総鉄門前に約60名の組合員が結集する中、集会は地本五十嵐書記長の司会で開会。

地方本部を代表し大沼委員長は、「社員・家族の厳しい生活実態から極めて不満の残る回答であり、社員に還元しようとしていない貨物会社経営陣の姿勢は、経営側の責任を社員に転嫁するものである」とあいさつ。

好条件はある

続いて東北貨物協議会大越事務局長は、この間の交渉と闘いの経過を説明。

交渉で会社は、「東日本大震災と台風12号、15号及び自然災害の大雨等により大幅な減収。中期決算で経常損益が17億円。昨年度2年ぶりに黒字になったが、今年度赤字決算では銀行の評価が下がる」としており、下期で挽回し黒字決算を社員の人件費削減で達成する

あと何をすれば

また大越事務局長は、交渉の

考えを明らかにした。

一方組合は、「大震災は千年に1度の災害、この様な時こそ内部留保金を取り崩しても社員と家族に報いるべき。」

東北では盛岡（タ）から東京（タ）へ瓦礫輸送が開始され、静岡県も受け入れを表明。トヨタは、今年から岩手県の関東自動車でプリウスコンパクトを生産予定。

現在は、トヨタ号と称したトヨタ自動車の専用列車が盛岡（タ）名古屋（タ）間で2往復輸送されドル箱列車になっている。プリウスの部品調達を考えるとともう1往復増もありえる。

仙台キリンビールも11月25日から鉄道輸送が再開するなど、好条件は揃っており支払い能力は十分と主張。

また大越事務局長は、交渉の

この様にあらゆる闘いを実施しても回答は超低額回答の1・57ヶ月であり、仲間からは『分会として何をすれば目標が達成できるのか』『あと出来る闘いはスライキしかないのではなか』『ストライキを背景に交渉してほしい』等の声が出されている」と切実な仲間の意見を紹介。続いて、宮城県支部秋山委員長、仙総支部庄司委員長、貨物宮城分会結城書記長より、それぞれ決意表明を受けた。

集会では佐藤執行委員が読み上げた集会宣言を採択し、最後に大沼委員長の団結頭張るうで怒りの拳を突き上げた。

※同日、福島県集会是郡山分連協で、また郡山工場支部は11月25日、郡総門前で抗議集会を開催した。

11・19	11・17	11・14	11・12	11・12	11・11	11・21	11・8
団交（機技セ業務委託拡大・提案）	団交（冬期対策・営業）	東北交運労協総会	全国組織部長会議	第23回東日本家族会総会	本社団交（検修外注化）	本社経協	東本部長・書記長会議

11・20	11・21	11・22	11・24	11・26	11・29	11・30	12・3
東北貨物協議会役員会	貨物抗議集会・仙台地区集会	第2回執行委員会	東北労働金担者・書記会議	東本第16回マラソン大会	小牛田地区集会	本社経協（安全）	会津若松地区集会

満身創痍でも五位

11月26日、第16回国労東日本マラソン大会が皇居外周で開催された。今年も仙台地本選抜チームがエントリし、上位入賞を狙ったが、エース級ランナーのケガなどの欠場により、残念ながら結果は五位入賞にとどまった。

来年に繋がるレース

レポート

なんという不運か。南幅誠也のオーバーワークによる筋断裂。そして高橋正人と若きエースの高橋祐輝の欠場という「飛車角落ち」



地方代表のプレッシャーを背負いスタートするランナー達

では成すすべもない。「今回は楽しもうよ」。どこからともなくそんな声が出た。だがレースの欠場はご免だ。エントリしないわけにはいかない。

白羽の矢は吉田英樹と地本武田に突き刺さった。

花の一区は佐々木晴基。

この間誰にも譲らない指定席だ。いつもの安定した走り7位に付ける。二区

の吉田英樹は南幅の代役として奮闘し7位をキープ、三区の佐藤勝成に棒を託す。

佐藤はいぶし銀の走りでありと順位を上げ四区の大田へ。大ブレーキも予想されたがそのまま五区大知里正へ。「越したのではなく、相手が下がってきた」と小憎らしいコメントを残して大知里がまた一つ順位を上げ、大黒柱の高橋真人に繋いだ。結果は五位でフィニッシュ。決して層は厚く



奮闘した地本選抜駅伝チームのメンバー

盛岡がV

レースは若手を擁した盛岡が13年ぶりに制した。昨年優勝の長野は二位、三位は高崎。

東会社は妥結

JR東日本会社は12月24日、国労の年末手当に対する要求に対し、2・78ヶ月の支払い回答を示した。交渉の席上、東本社は、「①回答は、東日本大震災からの復旧・復興に尽力した社員、パートナー会社社員の奮闘に水を差すものであり、到底受け入れられないこと。②回答水準は、JR発足当初に等しい水準であり、今日の会社の経営体力が反映されていない。過去最低の減収だとしても、引き続き大きな収益をあげており、純利益の通期見通しは2年前の水準に匹敵する勢い。③年間5・38ヶ月分は、発足4年目の1989年の5・5ヶ月分を下回る水準であり、JR発足以来24年間、輸送の安全を守り続けてきた

不満。社員の声を真剣に受け止めよ」と口頭で組合員の声を伝えた。会社は、「意見は伺った」と述べたにとどまった。

職場問題集約

仙台運協

国労仙台運輸協議会（三塚昇議長）は、東日本大震災を中心とした職場の問題点等について集約し、地方本部に早期の対応を求める文書を11月7日に提出した。その内容は次の通り。

①災害時における通勤手段（帰宅時を含む）についての考え方を明らかにすること。（遠距離通勤者が長期自宅待機となったことを踏まえ、早期に改善すること）

春闘事務局を立上げ

地方本部は来春闘に向けた取組みについて、今年も春闘事務局会議を立ち上げ行動を開始する予定だ。今後予定されている事務局会議の日程は以下のとおり。

- 第一回 12月13日（火）18時45分～
- 第二回 1月12日（木）18時45分～
- 第三回 2月9日（木）18時45分～

国労仙台総行動について 総行動の目的

- ①大巾賃上げ獲得のための取組む
- ②仕事や職場環境および生活の見直しと、それらの改善の取組む
- ③上記①と②取組みを通して、組織の活性化と強化拡大を目指す
- ④国労の取組みを内外にアピールする
- ⑤春闘を社会へアピールする

※春闘時の取り組み事項として予定されているもの
3月9日（金）国労東北総決起集会
3月10日（土）国労仙台総行動 【利】

②3・11の大震災によって、各線区は甚大な被害を被ったが、未だ全面復旧されていない線区について、今後の復旧計画と併せて将来的な考えを明らかにすること。

③昨年1月に車両の導入計画の変更について明らかにされたが、3月の大震災によつての車両導入計画に変更はないのか明らかにすること。

④災害時における乗務員の業務中での連絡手段を確保すべきと考えるが、大震災を教訓として新たな対策を講じる必要がある。現在どのようなに検討されているのか詳細に説明すること。

⑤仙石線、石巻線各駅間の避難場所を指定すること。（地域災害マップ）

⑥ワンマン列車運行を止めること。（再度ワンマン列車問題点の検証が必要）

⑦配転者の地元復帰運動を再度行うこと。（震災時、地元の間が少なく劣悪な労働条件となった）

⑧現行の災害マニュアルについて説明を行うこと。

⑨輸送指令員に対し、災害マニュアルを配布し能力向上を図ること。

地本が各地区集会

情勢の共有と意思統一

地方本部は、地方大会以降の情勢について共通認識を図り、当面する12春闘までの闘いの流れを確認し、各分会大会に反映させるため、各地区集会を開催している。

各支部が大会

宮城県支部

宮城県支部は11月5日、第53回定期支部大会をこくろう会館において開催し、以下の執行体制を確立した。

執行委員長 山田芳夫（岩沼駅連合）
執行副委員長 八巻孝夫（仙・宮運輸区）
書記長 山田芳夫（岩沼駅連合）
執行委員 内田五郎（貨物宮城）
宮本広美（宮城野電車区）
佐藤涼一（小牛田運輸区）
村上正博（仙台駅連）
木藤昭弘（仙台駅連）
千葉祐悦（仙石線駅連）
千葉薫（仙台信通区）
婦人部長 加藤和子（仙台駅連）

山形県支部

山形県支部は11月13日、第26回定期支部大会を山形市内大手門パルズにて開催し、以下の執行体制を確立した。

執行委員長 小松山広幸（郡山信通区）
執行副委員長 佐々木勝紀（福島地区）
堀口裕一（郡山信通区）
高橋寛（若松地区）
書記長 佐藤正彦（郡山駅連合）
書記次長 山田明彦（福島地区）

村田与志一（福島建築）
執行委員 菊池尚一（郡山駅連合）
堀切彰（郡山電力）
小松山聡（郡山保線区）
阿部貴弘（郡山駅連合）
橋本好衛（貨物福島）

仙総支部

仙台総合車両所支部は11月19日、こくろう会館において、第25会定期支部大会を開催し、以下の執行体制を確立した。

執行委員長 庄司修（車体）
執行副委員長 阿部春雄（運転）
書記長 高橋進（台車）
執行委員 遠山政孝（組立）
渡辺一則（台車）
原田靖（車体）
武田忠（車体）
山口智（車体）

郡工支部

郡山工場支部は11月26日、第81回定期支部大会を郡山市内橘地域公民館で開催し、以下の執行体制を確立した。

執行委員長 橋本守弘（車体科）
執行副委員長 大川原邦幸（装置科）
書記長 橋本光一（車体科）
執行委員 本田要一（装置科）
阿部政雄（車体科）